トロントのIUGG第12回総会に出席した松本誠一君からの便り

学術会議その他へは報告いたしましたが，IUGGの模様を大変遅くなりましたが，ご報告したいと思います．日本からの提出論文のうちで発表できたのは，気象部門では結局岸保さんの1篇だけ，それも10分間では充分意をつくせなかったと思います．正野教授の論文は私が出発する直前にスライドが届いただけで，原稿の方をなんとか手に入れたいと努力しましたが，結局間に合いませんでした．北川さんの論文は一応市栄さんに読んで戴くようお願いしてありましたが，原稿が座長の所に届いていたことを知らなかつたものですから，前日に座長あて取消の手続などいたしておりましたところ，後で聞くところによりますと当日講演の最後に，座長からこういう論文が届いているが，読む人がないのだが，どうしたものかと会場にはかり，結局そのまま散会になったことを知りました．

全般的にいって．日本のレベルが高い所にあることを知るにつけても，提出の論文が少なかったこと，それにもまして出席者が少なかったことが非常に残念でなりませんでした．これにひきかえ，ソ連の代表団は，意志の疎通は大変不自由でしたが，一応どのような分野で，どのようなことをやっているということが紹介され，かつまた，各種委員会に，多くの委員が送り込まれるようになったことは，これからの学術交流の面で，大いに意義があったと思います．

事務会議の面では，やはり〝Aeronomy〟の問題が最も討論の対象になりました．バーテルス教授がわざわざ出席して，気象の方にも，Aerology などという言葉を使っているくらいだから，差支えはなかろうと反論しました．すでに出来た言葉を取消すことは出来ないし，また非常に active な面であることも事実なんだからということは，充分意識しながらも，〝meteorology〟が単に気候，天気のことだけしか扱わない印象を与えはせぬかと心配する人と，meteorology 本来の意味を強調して名称変更を観迎せぬ人との間で，随分多くの意見が出ましたが，気象の Association の名前は結局 International Association of meteorology and Physics of the Atmosphere と執行委員会提案のとおりに決りました．〝and〟を〝，〟にしろとか〝(　)〟にしろとか，Physics and Chemistry とすべきだろうとかなかなかにぎやかで，この問題だけが挙手採決の方法がとられました．私は今急いで名称変更するまでもないことで，問題があるとするなら気象学者の方が，進んで高い層の現象に関心を持たない（現在のところ）点にあるのではないかと考え，反対の挙手をいたしました．別の問題では，いろいろのシンポジウムが提案されておりましたが，その中でインドでモンスーンのシンポジウムを持ちたいと，Ramanathan と La Seur の提案があり，他のものに比べると具体的に示されていたのですが，援助はおしまないが，local の問題で，ヨーロッパまでがわずらわされたくないといった風の意見が出ていたのは，一寸気にりなました．結局は資金が問題なのでしょう．

Association だけではどうにもならないというわけで，執行委員に一任になりましたが，本会議でどういうことになったか知りたいものと思っています．

（畠　山）

学　界　消　息

1. 宗谷丸出発

10月21日宗谷丸は南極本観測のために出帆した．

2. 気球3万メートル上昇

神戸大学の皆川理氏を中心とする関西宇宙線研究班の大気球が9月28日30,000mまで上昇した．

3. レーダー輸出さる

日本無線株式会社製作の気象用レーダー2台が印度に輸出された．

4. 人工衛生飛ぶ

10月4日に人類初めての人工衛星がソ聯邦によって打出され，地球のまわりを回転し始めた．11月3日に人工衛星第2号が同国によって放たれた．第2号では犬による生物実験や宇宙線，太陽放射その他の観測もなされる．

5. 猿橋勝子女史，松本誠一氏に学位

猿橋勝子女史は「天然中の炭酸物質の行動について」，松本誠一氏は「バロクリン大気の擾乱の鉛直構造について」によって，それぞれ4月27日，9月21日に東京大学から学位を受けた．

7. 極光学者ステルマー教授の死

ノールウェーのカール・ステルマー教授は8月13日に83才で死去された．磁場内における帯電微粒子の運動に関する研究や，極光の写真観測で有名であった．